

## 論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

氏 名 杉江 あい

論 文 題 目

Bangladesh 村落社会におけるコミュニティの動態

(Dynamics of rural community in Bangladesh)

### 論文審査担当者

主査	名古屋大学大学院環境学研究科教授	岡本耕平
委員	名古屋大学大学院環境学研究科教授	横山 智
委員	名古屋大学名誉教授	溝口常俊
委員	広島大学大学院国際協力研究科准教授	外川昌彦

## 論文審査の結果の要旨

従来の研究において、バングラデシュの村落はムスリム中心の社会として理解されてきた。これに対し本研究は、マイノリティであるヒンドゥーや、ムスリムの中で伝統的職能などから差別を受ける集団への視点を組み込み、多様な構成主体とその相互作用から村落社会を捉えなおすことを目的としている。バングラデシュ村落社会を、パキスタン建国時(1947年)から、バングラデシュ独立(1971年)を経て現在に至るまでの長期にわたって、高位カーストを中心とするヒンドゥーがインドへ流出にしたことによる変化に注目して検討した。具体的には、住民が自律的に形成し、選択的に成員となって紛争解決や宗教的な活動を共同する、ショマージと呼ばれる社会単位に着目し、これがどのような宗教的、社会的な差異や地理的な領域に基づいて形成されるのかを検討した。また、ジャーティという、通説的にはカーストの現地語とされ、バングラデシュ村落において集団間の差異化・差別のために宗教横断的に使われる言葉を分析概念として用いた。

本研究の対象地域は、ヒンドゥー、ムスリム、およびムスリムの被差別集団が定住する、首都ダッカから北西約80kmに位置するタンガイル県の数か村である。論文提出者は、この対象地域において2011年から2015年まで通算22ヶ月間、参与観察と住民へのインタビューからなるフィールド調査を行った。2つの村に対しては複数回の全戸調査を実施した。また、これらの一次資料に加え、村内の土地保有状況等を示す1918年、1962年、1989年の地籍台帳・地籍図、行政によって公式に取り扱われた訴訟の記録簿等の分析を行った。

研究結果として、宗教的活動を主とする共同的、組織的な活動はショマージをベースになされており、ショマージはジャーティによる社会的境界と特定の村落単位への帰属意識が相互に関連し合って形成されていた。また、ショマージは、社会関係や相互行為を枠づける基準として影響力を持っていたが、イスラムのカースト的集団である楽師(シャナイダル)を調査して明らかにした様に、信仰、互助、施しなどの特定の状況や場面では、ショマージの境界が越えられ後景化されていたことを見出した。そして、バングラデシュの村落社会は、宗教やジャーティの同一性に基づく共同性と、それに基づかない共同性とが動的に展開する社会空間として捉えられると結論づけた。

本研究の成果は、現地語の高度な運用能力による綿密なインタビュー調査に基づいており、ムスリム・ヒンドゥー構成の異なる複数の村落を対象とし、地籍調査なども加え、多角的・動的にバングラデシュ農村社会を捉えることに成功した。本研究によって、「カーストが存在しないムスリム中心のバングラデシュ」という、ステレオタイプな地理的認識の修正がすすむと期待できる。以上のように本論文は、地理学および南アジア地域研究に大きな貢献をなした。よって、論文提出者杉江あい君は博士(地理学)の学位を授与される資格があるものと判定した。